

第7回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議事要旨（案）

日時：令和2年6月11日（木） 13:00～15:00

場所：Web会議

1. 開会

2. 開会あいさつ

（中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長）

3. 委員長挨拶

4. 議事

(1) 令和元年度までの試験運用結果及び各部会の報告について

事務局より令和元年度までの試験運用結果及び各部会の報告について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・流入土砂量については実績堆砂量から作成したLQ式を用いて推定していく方針でよいと考えられるが、採水調査結果と実績堆砂量に差異が生じる要因を分析すること。
- ・分派堰の堆砂状況に応じて、できる限り貯水池への土砂流入量を抑制するという視点も加えて、バイパスの運用方法を検討すること。
- ・土砂解析モデルについては、今後のデータの蓄積状況に応じて、引き続き検証を実施できるような仕組みがあると良い。
- ・インバートコンクリートの摩耗の発生要因の分析が重要である。
- ・土砂バイパストンネルの補修計画を作成する上で、重要と考える項目（摩耗抑制、補修費用等）の整理が必要である。
- ・ゲート不具合への対策について、試験運用中にハード及びソフト対策の効果を確認し検証しておく必要がある。
- ・土砂バイパスにより河床材料が細粒化し、生物相が応答していることが確認できているが、平常時の水質のインパクトが大きいのと思われる。インパクトの変化について明らかにしていく必要がある。
- ・現行の環境モニタリング調査と水国の調査方法が異なるため、評価方法に留意する必要がある。
- ・データが蓄積されてきたことを踏まえ、今後は、指標種となるようなものを決めて、具体的にモニタリングしていくと良い。
- ・ダム下流の小渋川の河床材料が、土砂バイパス運用によりダム上流の傾向に近づいていっているかを把握するため、調査結果を縦断的に比較して整理すると良い。

(2) 今後の方針について

- ・今後のバイパスの試験運用の予定・方針については提示された内容で了解した。

5. 閉会